

教育システム情報学会

Japanese Society for Information and Systems in Education



発行日 2003年 5月31日
発行所 教育システム情報学会
発行者 岡本敏雄
〒661-8520 尼崎市南塚口町7-29-1
園田学園女子大学情報教育センター内
☎06-4961-6507 FAX06-4961-6508
<http://www.jsise.org/>
E-mail:secretariat@jsise.org

ニュース・レター No.123

第28回全国大会のご案内

デジタル・ルネッサンスの教育環境の展開
～創造性を育む学習エコロジーの探究～

研究発表の申込締切は、6月20日です！！

★ 企画セッションの発表も同時受付中です ★

詳しくは、下記の全国大会ホームページをごらんください。

<http://JSiSE2003.edu.ibaraki.ac.jp/>

講演、パネル討論、各種発表セッションを企画しております。

多くのご発表、ご参加をお待ちしております。

発表・参加申込 発表申込 〳切： 2003年6月20日(金)

発表原稿 〳切： 2003年7月11日(金)

事前参加申込 〳切： 2003年8月15日(金)

★ 発表の申込は、全国大会ホームページからお申し込みください。

全国大会ホームページ <http://JSiSE2003.edu.ibaraki.ac.jp/>

実行委員会事務局 〒310-8512 茨城県水戸市文京2丁目1番1号
茨城大学教育学部内 二宮研究室 教育システム情報学会
第28回全国大会実行委員会事務局
e-mail jsise03@mcs.ipc.ibaraki.ac.jp

**企画セッションは、7つのテーマが
決定しました！**

◆8月29日(金) [前日午後]

学会特別研究活動や今回のテーマに合わせた自主プログラムによるワークショップを企画しています。
(詳細は、全国大会ホームページでご案内します)

◆大会日程

8月30日(土) [第1日]

| | | | | | | | | |
|-------------|--|---|--|--------------------------------|---|-----------------------------|---------------------------------------|-------|
| 9:00~ | 受 付 | | | | | | | 企業展示会 |
| 10:00~12:00 | 企画セッション A 「学習コンテンツ・デザイン」 | 企画セッション B 「シミュレーションの教育応用ーVirtual Reality、ゲームを含むー」 | 企画セッション C 「第二言語の学習支援ー母語以外の文字・音声言語の習得を支援する方法とシステムー」 | 企画セッション D 「高等教育におけるIT利用」 | 企画セッション E 「協調学習のためのtechnologyとpedagogy」 | 企画セッション F 「情報教育と教師教育」 | 企画セッション G 「e-Learningにおける標準化技術」 | |
| 12:00~13:00 | 理事会 | | | | | | | |
| 13:30~14:00 | 総 会 | | | | | | | |
| 14:00~15:00 | 基調講演 「e-Learningにおける世界の研究動向と新しいe-Pedagogyの探求」 電気通信大学大学院 岡本敏雄(学会長) | | | | | | | |
| 15:00~16:00 | 特別講演 「教育改革をめざした教育の情報化」 講師：文部科学省 生涯学習政策局 学習情報政策課課長 桑原 靖氏 | | | | | | | |
| 16:10~18:00 | A1：一般講演 | A2：一般講演 | A3：一般講演 | A4：一般講演 | A5：一般講演 | A6：一般講演 | ポスター/デモセッション | |
| 18:30~20:30 | 懇親会 | | | | | | | |

8月31日(日) [第2日]

| | | | | | | | | |
|-------------|---|---------|---------|---|---------|---------|--------------|-------|
| 9:00~ | 受 付 | | | | | | | 企業展示会 |
| 9:30~11:30 | B1：一般講演 | B2：一般講演 | B3：一般講演 | B4：一般講演 | B5：一般講演 | B6：一般講演 | ポスター/デモセッション | |
| 11:30~13:00 | 昼 食 | | | | | | | |
| 13:00~14:50 | パネル討論会 「デジタル・ネットワーク社会における教育文化の革新～学習エコロジー(学習環境)のデザイン～」 モデレータ：福原美三 | | | パネル討論会 「情報教育元年～期待される情報科教員～」 モデレータ：清水康敬 | | | | |
| 15:00~17:00 | C1：一般講演 | C2：一般講演 | C3：一般講演 | C4：一般講演 | C5：一般講演 | C6：一般講演 | ポスター/デモセッション | |

大会参加費等・学生以外の参加者：7,000円 (事前申込の場合は、6,000円)

(注)参加費等には、参加費1,000円、論文集6,000円(事前申込は、5,000円)を含みます。

・学 生 参 加 者：参加費1,000円、論文集代6,000円(事前申込は5,000円)

論文掲載費：1,000円(論文1編につき。企画セッション、一般講演、ポスター・デモセッションでの発表を対象とします。)

懇 親 会 費：6,000円(事前申込の場合は、5,000円)

2003 年度第 2 回研究会のお知らせ

テーマ:『シミュレーション

(Virtual Reality、ゲームを含む)』

担当: マルチメディア教材研究部会
部会長 / 磯本 征雄

プログラム

教育システム情報学会第2回研究会は、『シミュレーション (Virtual Reality、ゲームを含む)』をテーマに開催いたします。研究会参加への事前申込は不要です。

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げております。

なお、研究会について、詳細は、以下のURLをご参照下さい。

<http://nozaki-lab.ics.aichi-edu.ac.jp/multi2003/>

記

日 時: 2003 年 7 月 26 日(土)

会 場: 名城大学天白キャンパス タワー75

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501

開催校担当: 山崎初夫

シミュレーション教材としてみる SimCity

田中聖斗 (都市シミュレーション学研究会)

芸術学部生向けゲームプログラミング教材の開発

大井祥照 (東京工芸大学)

遠隔講義におけるストリーミングメディアと電子出版物の連動手法

國宗永佳 (信州大学), 和崎克己 (信州大学大学院), 新村正明・師玉康成・中村八束 (信州大学), 不破 泰 (信州大学大学院)

Web 上の日本デジタルコミックブック型観賞システムの構築

高田伸彦 (金沢学院大学)

メールと Web を連携した教育支援の試み

伊藤 敏 (愛知工科大学), 井上祥史 (岩手大学)

オンラインショッピング体験型ソフトの開発 - 中学校技術・家庭科における実践的利用 -

古野 泉 (富士通中部システムズ), 野崎浩成・江島徹郎・梅田恭子・平田賢一 (愛知教育大学)

次ページへつづく

知的障害児のための算数学習用 CAI ソフトの製作
高木芙美・大下眞二郎・半田志郎・笹森史人（信州大学大学院）

伝統芸能を題材としたデジタルコンテンツの構成要素とその提示手法
北川博美（中部学院大学） 磯本征雄（岐阜聖徳学園大学）

分散型 VOD における関連情報表示に基づく自己学習支援の提案
入部百合絵・安田孝美（名古屋大学大学院）

VRML によるスポーツ学習システムの開発
岡本 敦（名古屋経営短期大学）、桜井伸二（中京大学）、池上康男・安田孝美・横井茂樹（名古屋大学）

視線駆動型 Flipper System の構築と旧システムとの比較
坪倉篤志・野中道三（大阪電気通信大学）、上月景正（コナミ株式会社）、対馬勝英（大阪電気通信大学）

動画と解答を同期させてリスニング力を高める語学教育 by “SMILE for ME”
- スタンドアロン版の開発 -
大倉孝昭（大谷女子大学）

新入会員の紹介

新入会員（敬称略）

| | | | |
|----------------|--------------------|------------------|------|
| JSiSE-A0302003 | 星野祐子 | （学）岩崎学園 情報科学専門学校 | 正会員 |
| JSiSE-A0302004 | 杉山岳弘 | 静岡大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302005 | 徳森伸幸 | | 正会員 |
| JSiSE-A0302006 | 若菜啓考 | 東和大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302007 | 長田尚子 | 青山学院大学 | 準会員 |
| JSiSE-A0302008 | 玉木欽也 | 青山学院大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302009 | 田所耕哉 | 中村学園大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302010 | Vytautas Reklaitis | 電気通信大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302011 | 新開純子 | 富山商船高等専門学校 | 正会員 |
| JSiSE-A0302012 | 加藤直樹 | 東京農工大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302013 | 大即洋子 | 東京農工大学 | 準会員 |
| JSiSE-A0302014 | 小波秀雄 | 京都女子大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302015 | 上林弥彦 | 京都大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302016 | 森屋裕治 | 名古屋女子大学短期大学部 | 正会員 |
| JSiSE-1A030055 | | （株）エヌ・ティ・ティ・エックス | 維持会員 |
| JSiSE-A0302017 | 畑田 稔 | 富山県立大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302018 | 佐藤和彦 | 室蘭工業大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302019 | 松浦健二 | 徳島大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302020 | 川場 隆 | 活水女子大学 | 正会員 |
| JSiSE-A0302021 | 小林沙織 | パソコン教室 TOM | 正会員 |

（2003年4月2日～2003年5月20日）

2004年7月発行号掲載 ☆特集論文募集☆

締め切り：2003年11月1日

テーマ：学習科学と学習 / 教育支援システム

主旨

学習 / 教育支援システムに関する研究において、人間の学習や認知・行動についてのモデルや理論は、システムの設計・開発の基盤であり、また、その研究の目標や成果を位置付けたり、発展性を示す上で重要な役割を果たします。本論文特集では、学習 / 教育支援システムを指向した「人間の学習」についての理論的・実践的研究、および基盤となる「人間の学習」についてのモデルや理論を明示的に示した上で行われている様々な学習 / 教育支援システムに関する研究を幅広く募集します。本論文特集は、「人間の学習」を研究対象とする学習科学と、ITを基盤とした「人間の学習」の補助・促進を目指す学習 / 教育支援システムに関する研究の突りある融合を目指して企画されたものです。これらの融合を現実のものとしている研究はもちろん、目指している、あるいはつながってゆくという観点での研究も歓迎いたします。ぜひ、将来を見据えた上での積極的な投稿をお願いいたします。

対象分野

学習科学と学習 / 教育支援システムの融合を見据えた様々な理論的・実践的研究を募集します。本論文特集は、将来的な融合への契機となることを目的としており、現時点での融合は必ずしも条件としていません。将来に向かって何らかの可能性が含まれていれば十分であるとしていますので、将来を見据えての積極的な投稿をお願いいたします。具体的なキーワードとしては次のようなものを挙げるができますが、これらに限りません。

知的学習支援システム、学習科学、認知モデル、協調学習 / グループ学習、CSCL、ヒューマンインタフェース、人工知能、学習者モデル、エージェント、ILE(Interactive Learning Environment)、ナビゲーション、WWW、インターネット、オーサリング、バーチャルリアリティ、ハイパーメディア、マルチメディア、知的CAI/ITS、シミュレーション環境

論文種別

原著論文、ショートノート、実践論文、実践速報を募集します。なお、査読の結果により、異なる種別での採録になることがあります。また、編集委員会の判断により、特集ではなく一般投稿論文としての採録とさせていただくことがあります。

投稿要領

一般の論文投稿規程に準じます。投稿に際しては、原稿の1ページ目および封筒に「学習科学と学習 / 教育システム」と朱書きしてください。

スケジュール

投稿締め切り：2003年11月1日

掲載予定：2004年7月1日発行の学会誌

問い合わせ・原稿送付先

教育システム情報学会事務局

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

Tel : 06-4961-6507 Fax : 06-4961-6508

園田学園女子大学 情報教育センター内

E mail : secretariat@jsise.org



教育システム情報学会 英文論文誌

論文募集 (Vol.2, No.1, 2003 年発行)

教育システム情報学会では、昨年度から年 1 回定期的に英文論文誌を発行することになり、Vol.1, No.1 を創刊号として世界に向けて発行することができました。Vol.1, No.1 の内容は招待論文 2 件、特別論文 5 件、翻訳論文 1 件、一般論文 5 件（原著論文 2 件、実践論文 3 件）で構成されており、質・量ともに「教育と情報通信技術」に関する世界レベルの内容になりました。是非、多くの方々にご投稿いただき、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて積極的に発信していただきたいと考えます。

下記の要領で、Vol.2, No.1 への掲載論文を募集いたします。多くの皆様からの投稿をお待ち申し上げます。

論文種別：原著論文，実践論文

投稿締切：2003 年 6 月末日（投稿は随時受け付けておりますが、この期日までに投稿をいただいたものに関しては Vol.2, No.1 への掲載の対象となります）

投稿締切を延長致しました！！是非ご投稿下さい！！

原稿執筆要領：下記の執筆要領に従って原稿を作成してください。なお、執筆要領の詳細は Web ページ（<http://www.jsise.org/e-journal/cfp.html>）を参照してください。

寄稿の手続き

- ・論文は他学会において査読中でないこと。そしてその主要部分が未発表であること。但し、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表したものをまとめたものは投稿することができる。
- ・寄稿者は本会会員である必要はないが、本会会員である場合には投稿料に会員の価格が適用される。寄稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員になれば投稿料に会員価格が適用される。

寄稿原稿の執筆要領

- ・原稿の構成：標題，著者名（氏名，所属），概要，本文，参考文献，付録の順序とする。原稿は刷り上りイメージになるべく近い形で作成し，図・表も本文中に含めること。
- ・記述言語：英語のみ
- ・Abstract：150 words 以内でつける。また，その下にキーワードを 5 つ程度書く。

次ページへつづく

- ・本文：章・節・項、等の見出しをつけて読み易くし、それぞれ「1.」…、「1.1」…、「(1)」 「(2)」…、「(a)」 「(b)」…の順に区別する。
- ・参考（引用）文献：記述内容に直接関連のある文献は、主文中における該当箇所の肩上の（ ）内に番号を示す。
(例)(1)Rockart, J. F. and Morton, M.S.S.; "Computers and the Learning Process in Higher Education", McGraw Hill, New York (1975) .
- ・図表：そのまま印刷されるので明瞭に書く。写真は図として扱い白黒のものを原則とする。
- ・制限枚数：原稿はA4判の用紙を使用し、10ptのTimesフォントを基本として縦24cm，横18cmの範囲に2段組みの書式で、刷り上がりイメージにできるだけ近い状態で印刷して投稿のこと。刷り上がりページ数は、原則として図表を含めて8頁以内とする。
- ・提出物：オリジナル原稿1部とコピー3部を郵送する。同時にオリジナル原稿をPDF形式またはWord形式にしたものを電子メールに添付して送付する（ファイルサイズが1Mバイト未満）、またはダウンロードできるようにする。
- ・その他：学術用語は文部省の規定があればそれに従うこと。また、学会名、およびその略称は学会指定のものがあればそれに従うこと。

原稿の送付先

送付される際には封筒の表面に「英文誌投稿原稿在中」と朱書してください。

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-5 浅井ビル4F

科学技術教育協会内

JSiSE 英文論文誌編集事務局 山口・伊藤 宛て

E-mail: jsise-e@fest.or.jp

TEL: 03-5842-8482 / FAX : 03-5842-8483



日独ワークショップ論文投稿のお願い

教育システム情報学会長
Workshop Co-Chair 岡本 敏雄

日頃より教育システム情報学会の活動にご尽力をたまり、御礼申し上げます。企画委員会で進めてまいりました、国際ワークショップの開催が以下のように纏まりました。日本、ドイツ、オーストリア、スイスの e-Learning に係わる研究者、教育機関関係者が集まり、最先端の研究、方法・組織、国際連携等の話題を提供し、情報交換を行います。

ワークショップの主旨に沿ったご研究活動を推進されて、国際的にご活躍されておられます皆様の論文ご投稿をお待ちいたします。

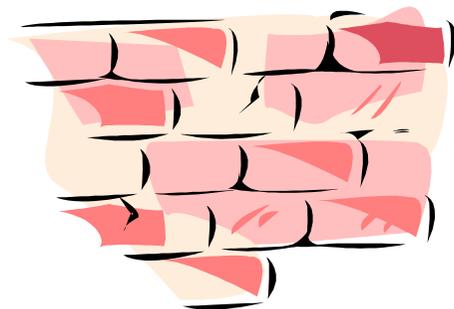
本ワークショップは我が国が e-Learning 先進国であること、さらに研究において JSiSE が日本の推進役を担っていることを知ってもらふ絶好の機会になります。以下のご案内ページをご覧ください。

締切が 6 月 10 日になっておりますので、ご注意ください。

日独ワークショップ:開催は 9 月 8、9 日、場所はベルリンです。
どうぞよろしく御願い申し上げます。

The Joint Workshop of Cognition and Learning
through Media-Communication for Advanced e-Learning

<http://www.jsise.org/jwcl>



JWCLとALTA'03にご参加予定の会員の皆様へ

JWCL = The Joint Workshop of Cognition and Learning Through Media-Communication
For Advanced e-Learning)

ALTA'03 = International conference ADVANCED LEARNING TECHNOLOGIES
AND APPLICATIONS)

航空券・ホテル等の手配はキャノンツアーズへお問い合わせください。

モデルコース

| | | | |
|---|----------|---------------|------------------------|
| 1 | 9月7日(日) | 成田発 ベルリン着 | 空路、ヨーロッパ内乗り継ぎベルリンへ |
| 2 | 9月8日(月) | ベルリン滞在 | JWCL参加 |
| 3 | 9月9日(火) | ベルリン滞在 | JWCL参加 |
| 4 | 9月10日(水) | ベルリン発 カウナス着 | 航空機と列車でヴィリニュス乗り継ぎカウナスへ |
| 5 | 9月11日(木) | カウナス(リトアニア)滞在 | ALTA'03参加 |
| 6 | 9月12日(金) | カウナス(リトアニア)滞在 | ALTA'03参加 |
| 7 | 9月13日(土) | カウナス(リトアニア)滞在 | ALTA'03参加 |
| 8 | 9月14日(日) | カウナス発 | 空路、ヨーロッパ内乗り継ぎ成田へ |
| 9 | 9月15日(月) | 成田着 | 到着 |

航空運賃例：ベルリン単純往復 = ¥165,000 (BA, エコノミークラス)

ベルリン+リトアニア = ¥165,000 + ¥156,700 (リトアニア航空)

JWCLまたはALTA'03のみのご参加でも結構です。

その他さまざまな日程のコース作成・お見積もり・手配をいたします。まずはお問い合わせください。

JWCLとALTA'03については、ニュースレターNo.121をご覧ください。

お問い合わせ・お申し込み先

キャノンツアーズ株式会社 (国土交通大臣登録旅行業第123号)

〒146-8512 東京都大田区下丸子3-30-2

Tel: 03-3757-9641

Fax: 03-3757-5815

e-Mail: h.kobayashi@cgbp.canon.co.jp

担当: 小林

第 26 回情報化学討論会のご案内

主催 日本化学会情報化学部会

共催 日本薬学会, 日本農芸化学会, 日本分析化学会, 日本コンピュータ化学会

協賛 教育システム情報学会

会期 11月18日(火), 19日(水)

会場 星薬科大学(東京都品川区荏原2-4-41)

交通 東急池上線「戸越銀座駅」より徒歩5分、地下鉄浅草線「戸越駅」より徒歩7分、

東急目黒線「武蔵小山駅」より徒歩8分

地図 <http://polaris.hoshi.ac.jp/kanri/annai/>

発表申込締切 7月18日(金) [必着]

予稿原稿締切 9月26日(金) [必着]

参加登録予約申込締切 10月10日(金) [必着]

討論主題

- (1) 化学情報学(化学論理学, 情報検索, DBコンピュータネットワーク, CG, グラフ理論, 反応設計など)
- (2) 理論化学・計算化学(MO, MM, MD, MC, 各種シミュレーションなど)
- (3) ケモメトリックス及びそのソフトウェア(ニューラルネットワーク, ファジィ, カオス, 遺伝的アルゴリズム, 構造物性相関, データマイニングなど)
- (4) 化学教育・学習システム
- (5) その他情報化学に関するもの(コンビナトリアル・ケミストリー, 遺伝情報, 環境ホルモン情報など)

発表形式 口頭(講演25分または15分、討論5分を含む)またはポスター(構造活性相関シンポジウムと合同)

特別講演(仮題)(構造活性相関シンポジウムと合同)

「ゲノム情報から細胞内化学反応ネットワークを再構築する - バイオインフォマティクスから化学分析まで -」西岡 孝明(京都大学大学院農学研究科)

「構造と機能からみた器官形成と形づくり」浅島 誠(東京大学大学院総合文化研究科生命系)

発表申込方法 E-mailにより受付。詳細は下記URLをご覧ください。

予稿原稿 A4判で、本文(和文または英文)2ページまたは4ページ。要旨要約は、英文で半ページ。メールでお送り頂きます。執筆要項および送付方法は、下記URLに掲載します。

参加登録費(構造活性相関シンポジウムと共通、要旨集を含む)

[一般] 予約6,000円, 当日8,000円; [学生] 予約2,000円, 当日3,000円

要旨集前送希望の場合は郵送料1,000円を別途申し受けます。なお、費用振込み後の参加取り消しによる返金には応じられません。

懇親会(構造活性相関シンポジウムと合同) 11月18日(火) 星薬科大学内「ステラ」にて

会費:[一般] 予約6,000円, 当日7,000円 [学生] 予約3,000円, 当日4,000円

参加登録予約申込方法 参加登録及び送金方法などの詳細は、下記URLに掲載します。

申込先 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学理学部化学科

第26回情報化学討論会実行委員長 鷹野景子

電話: 03-5978-5338 FAX: 03-5978-5335 E-mail: cicsj26@chem.ocha.ac.jp

URL: <http://polaris.hoshi.ac.jp/cicsj26/>

第3回e-ラーニング技術特別委員会シンポジウム報告

教育システム情報学会
e-ラーニング技術特別委員会
委員長 小松 秀園



4月16日(水)に(株)ビジネスブレークスルーのご好意で同社のセミナーホールをお借りして14:00~18:00のスケジュールで約60名の参加者により開催されました。

第3回のシンポジウムのはじめのテーマではアメリカで成功している社会人大学院と企業内教育連携の

ビジネスモデルを参考にしながらこれから創られる社会人大学院の構想や大学の現在の認識などの話しから日本の社会人大学院発展のあり方を議論しました。ふたつ目のテーマでは業務に貢献するe-ラーニングをマイクロソフト社やシスコ社の先進的な実践事例から学ぼうと熱心な議論が展開されました。プログラムは、以下のとおりでした。

第1テーマ「企業内教育と社会人大学院がe-ラーニングで連携できるか」

| | | |
|--------|---------------|-------|
| モデレーター | NTTラーニングシステムズ | 小松 秀園 |
| パネリスト | 産業能率大学 | 伊藤栄二郎 |
| | 早稲田大学 | 村岡 洋一 |
| | ビジネスブレークスルー | 伊藤 泰史 |

第2テーマ「e-ラーニングで業務に貢献する教育ができるか」

| | | |
|--------|----------|-------|
| モデレーター | NTT - AT | 二瓶 文博 |
| パネリスト | NTT X | 仲林 清 |
| | シスコ | 前田 信一 |
| | マイクロソフト | 佐藤 互 |
| | マイクロソフト | 小林 義孝 |

でした。

セミナー終了後のアンケートでは社会人大学院と企業内教育とが提携するなどというテーマはまだ日本にはなじみが薄く、熱心な人とあまり興味を感じない人と温度差がありました。

このような雰囲気は日本でのe-ラーニング活用の後進性を示しているようで、今後も情報を発信して啓蒙をする必要性を感じました。業務に貢献するe-ラーニングの活用についてはマイクロソフト社やシスコ社の事例が先進的で情報化社会に対応した教育システムのモデルを見たような気がしました。

このようなシステムはシステムが出来たからすぐ使えるというような物ではなく、活用して成果を上げるにはその企業なり、学校の文化が重要であることを強く感じました。

メディアをうまく使える文化を創り上げるためにも少しでも早く、試行錯誤の行動に入らねばならないという印象を受けました。

国際会議の案内

国際会議は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介やインターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、下記までご連絡下さい。また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

本案内はWWW

(<http://www.fu.is.saga-u.ac.jp/~hayashijisise/conf.htm>) で見ることできます。

ED-Media 2004: World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications

開催日程: 2004年6月21-24日

主催: AACE

開催地: Lugano, Switzerland

論文応募締切: 未定

URL: <http://www.aace.org/conf/default.htm>

e-mail: conf@aace.org

新着情報 3 件

m-ICTE2003: 2nd International Conference on Multimedia and ICTs in Education

開催日程: 2003年12月3日-6日

開催地: Badajoz, Spain

論文応募締切: 2003年6月1日

URL:

<http://www.formatex.org/micte2003/micte2003.htm>

e-mail: secretariat@formatex.org

WMTE 2003: Second IEEE International Workshop on Wireless and Mobile Technologies in Education

開催日程: 2003年12月8日-10日

主催: IEEE

開催地: National Central University, JungLi, Taiwan

論文応募締切: 2003年6月16日

URL: <http://l1tf.ieee.org/wmte2003/>

再掲載情報 1 件

Hypertext 2003: 14th ACM Conference on Hypertext and Hypermedia

開催日程: 2003年8月26日-30日

開催地: Nottigham, UK

論文応募締切: 2003年2月15日

URL: <http://www.ht03.org.uk/>

e-mail: lac@ecs.soton.ac.uk

国際会議案内文責 松原 行宏 (広島市立大学)

E-mail: matsubar@its.hiroshima-cu.ac.jp

選挙のお知らせ

会員並びに名誉会員 各位

教育システム情報学会選挙管理委員会

2003 年度新任役員・評議員選挙のお願い

本会規約第 22 条に基づき、2003 年新任役員・評議員の選挙を下記のとおり実施いたします。正会員並びに名誉会員各位は、下記要領にてもれなくご投票くださるようお願いいたします。

なお、投票用紙記載の候補者は、投票の参考に供するために「役員等候補者名簿作成に関する細則」により現理事・評議員および支部長が推薦するものです。（候補者の掲載順は、選挙管理委員会で、くじによりランダムにしています。）

記

- 1、同封の投票用紙・返信用封筒をご使用ください。
- 2、6月30日(月曜日)消印のあるものまでを有効とします。
- 3、投票の対象者は正会員・名誉会員です。また、本年度で任期が終わる満了者は投票の対象ですが、任期継続役員・評議員は投票の対象外です。（選挙資料3参照）
- 4、投票用紙に記載のある候補者を選定する場合は、当該の「選定欄」に 印をつけ、また、それ以外の会員を選定する場合は、各区分の空欄に氏名・勤務先を記入してください。
- 5、新任役員・評議員の定数はつぎのとおりです。選挙は、区分ごとに、この定数以内で 印または氏名を記入ください。
なお、定数を超えて選定した場合は、その投票は無効となります。
会長 1 名 理事 9 名 監事 1 名 評議員 5 名

以上

第 87 回 理事会・評議会 議事録

日時：2003年4月5日(土)17時30分～19時30分

場所：アルカディア市ヶ谷(東京,私学会館)

出席者：理事

岡本敏雄,磯本征雄,小松秀園,赤堀侃司(委任状),伊藤紘二,大槻説乎,大下眞次郎,坂元 昂(委任状),清水康敬,菅井勝雄,竹内 章(委任状),永野和男(委任状),永岡慶三,樋川和伸,溝口理一郎(委任状),矢野米雄(委任状),渡辺成良(委任状),山本 恒,

欠席者：上月景正,対馬勝英,

出席者：監事

小荒井順,今栄国晴(委任状)

出席者：評議員

家本 修,渋井二三男,高橋参吉,福原美三,米澤宣義

欠席者：評議員

石桁正士,奥田富蔵,黒瀬能幸,向後千春,竹本宜弘,西野和典,平嶋 宗,細井秀樹,松永公廣,前迫孝憲,三輪和久,村本 紘,山崎敏範,横山節雄,吉田 寛

：事務局

山本

：英文誌事務局

伊藤,山口

：その他

松居,関(記録)

配布資料

+ 資料1: JSiSE 第87回理事会・評議会 資料

+ 資料2: JSiSE2003 全国大会 別紙資料1

+ 資料3: 2003年度年間スケジュール

+ 資料4: JSiSE 英文誌(The Journal of Information and Systems in Education, Vol.1, No.1, 2002)

議事

1)新入会員の承認:

+ 山本事務局長より,資料1のpp.8に基づき,新入会員の説明があり,承認された.

2)JSiSE 英文誌発刊について:

+ 磯本副会長(編集委員会委員長)より,資料4のJSiSE 英文誌が3月に発刊されたと報告がなされた,

+ 岡本会長より,英文誌独自の編集委員会を設ける必要があると提案がなされた.

+ 松居先生(編集委員会委員)より,Vol.2に向けて活動が進められており,投稿締切りが5月31日であると報告がなされた.

3)全国大会(茨城大会)に関する件:

+ 菅井理事と樋川理事より,資料2に基づき,今年度の全国大会に関する説明がなされた.

- 菅井理事より,資料2の「教育システム情報学会第28回全国大会実施案」に基づき,全国大会の概要が示された.

- 菅井理事より,資料2の「全国大会メインテーマ」に基づき,基調講演,特別講演,パネル討論会I・II,企画セッションのタイトル,講師,およびコーディネータの確認がなされた.また,パネル討論会IIのコーディネータとして清水康敬先生が推薦され,承諾が得られた.尚,特別講演のタイトルと講演者,パネル討論会Iのコーディネータとパネリスト,およびパネル討論会IIのパネリストについては,大会企画委員会では人選を進めていくことが示された.

次ページへつづく

- 樋川理事より、資料2の「教育システム情報学会第28回全国大会後援・協賛依頼」に基づき、大会後援と協賛の説明がなされた。
- 樋川理事より、資料2の「ニュース・レターNo.122 原稿草案 第28回全国大会のご案内」に基づき、プログラムの概要が示された。また山本事務局長より、発表・参加申し込みについて、4月中旬から全てホームページで行なえる事が確認された。
- 樋川理事より、資料2の「第28回全国大会参加費等費用設定案」に基づき、参加費の説明がなされた。
- 岡本会長より、大会の活性化を目的として、29日(大会前日)に自主的なイベントを開催してはどうかと提案がなされた。

4) 理事・監事・評議員の選挙に関する件：

- + 山本事務局長より、選挙管理委員会で樋川理事に委員長を依頼し、承諾を得られたことが報告された。
- + 選挙管理委員長より、資料1のpp.9-10の「2003年度の選挙に関する申合せ事項」に基づき、2003年度の選挙に関する説明がなされた。
- + 役員の数を増やすことに関する意見があった。

5) 各委員会からの審議事項及び報告事項：

- + 各委員会の担当理事および評議員より、資料1のpp.10-13に基づき、活動報告がなされた。
 - 広報・WWW委員会
 - ・岡本会長より、ホームページを利用して、本学会の出版物(和文誌、英文誌)の広報活動を行なうことの重要性が示された。
 - ・担当理事および評議員より、支部との連携を取ることが必要であると指摘がなされた。
 - ・山本事務局長より、本学会におけるWWWの運用マニュアルを作成することが提案された。
 - 編集委員会
 - ・磯本副会長より、資料1のpp.3で示す議事に変更がないと報告がなされた。また、e-Learning特集号の発刊作業の進捗が報告された。
 - 情報教育特別委員会
 - ・磯本副会長より、情報教育に関する100頁前後の提言書を出すことが示された。具体的な活動としては、全国大会やシンポジウム(10月)の論文を中心に編集作業を進めていることが報告された。
 - e-Learning技術委員会
 - ・小松副会長より、資料1のpp.11に基づき、「e-ラーニング技術特別委員会シンポジウム」が開催されることが報告された。
 - 研究会委員会
 - ・伊藤理事より、資料1のpp.11に基づき、第1回研究会(テーマ：学習コンテンツデザイン)が開催されることが報告された。
 - ・伊藤理事より、第28回全国大会の企画セッションのタイトルとして、各研究会の年間テーマを利用することが報告された。また開催済みの研究会から良質な発表を、企画セッションの発表としてアンコールしてはどうかと提案がなされた。

6) その他：

- + 学術会議の会員選挙について、報告がなされた。
 - 科学教育分野
 - ・候補者：清水 康敬氏， 推薦者：岡本 敏雄氏
 - 情報学分野
 - ・候補者：溝口 理一郎氏， 推薦者：渡辺 成良氏
- + 「科学技術教育関連学協会連合」の運営委員として、磯本副会長を選出することが提案された。
- + 資料3に基づき、本学会の2003年度の活動予定が報告された。
- + 日独ワークショップ(9月8・9日)と遠隔教育ネットワークカンファレンス(9月11・12・13日)の予定で開催されることが報告された。
- + 坂元理事から全国大会の基調講演とパネル討論会を記録(録画)し、デジタルコンテンツとして公開して欲しいと依頼があったことが報告された。大会企画委員会で検討することが示された。

第 94 回情報教育研究部会の報告

研究委員会 委員長 松永公廣

第 94 回研究会（情報教育研究部会）は、3 月 15 日（土）に、大阪電気通信大学で開催されました。当日は寒く、雨模様でしたが、50 名近くの参加者があり盛況でした。発表件数は 12 件で、朝 10 時から夕方 5 時近くまで、熱心に研究発表が行われました。

研究発表の内容ですが、情報教育の教材開発や実践に関する研究が 5 件、コンピュータやネットワークを用いた授業設計に関する研究が 3 件、学習支援環境の構築に関する研究が 2 件、情報教育の内容に関する研究が 1 件、その他 1 件でした。

教材開発や実践に関する研究発表が多いことは例年と同様ですが、研究対象の教育内容には変化が見られました。プログラミングやソフトウェアの活用等の旧来からの内容に加えて、今回の研究会では、プレゼンテーション、コンピュータグラフィックス等の情報の発信や表現に関する研究（3 件）、情報倫理や問題解決の学習を対象にした研究（各 1 件）というように、新しい情報教育の内容に関する発表が増えてきました。

今年 4 月から、高等学校では新教科「情報」の授業が開始されていますが、情報表現力、情報創造力、問題解決力の育成という情報教育の新しい課題をテーマにした研究が、さらに増えてくるものと思われます。このような新しい情報教育の内容に対して、コンピュータやコンピュータネットワークを用いた学習支援環境の構築、教材や授業の設計等の研究が本研究部会で進められ、今後の情報教育の推進に少しでも貢献することができればと考えています。

■ JSiSE 2003 年全国大会 ■

事前大会参加振込手続は、払込取扱票をご利用ください。

今回のニューズレターに同封の郵便局払込取扱票をご利用いただき、事前払込にご協力をおねがいします。

論文集、懇親会費は、事前のお値段とは異なりますので、ご注意ください。

なお、払込取扱票をご入用の方は下記にご連絡をお願いします。

教育システム情報学会事務局
〒661-8620 尼崎市南塚口町 7-29-1 園田学園女子大学情報教育センター内
Tel 06-4961-6507
E-mail : secretariat@jsise.org

第94回研究報告

【情報教育研究部会】

研究報告書購入ご希望の方は、日本学会事務センター事業部・海外部（学協会刊行物頒布業務）まで、TEL（03-5814-5811）、FAX（03-5814-5822）Eメール（sub@bcasj.or.jp）でお申し込みください。

1部1,300円（送料共）です。残部切れの際はご容赦ください。

なお、JSiSE 会員で「研究報告」の年間購読（購読料は送料込みで年間4,000円）をご希望の方は JSiSE 事務局 TEL（06-4961-6507）、Eメール（secretariat@jsise.org）までご連絡ください（年間6回）。この際、ぜひ購読されますようおすすめいたします（教育システム情報学会研究会委員会担当 / 伊藤紘二）。



- ・開催日：2003年3月15日
- ・場所：大阪電気通信大学

1. Web 問題集を使った C プログラミング基礎教育の授業設計

佐野繭美、橋本はる美、牧野 純（摂南大学）、高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）
松永公廣（摂南大学）

大学での情報基礎教育の見直しが検討されており、リテラシー教育の次の段階として、データ処理（プログラミング言語基礎教育）が候補に挙げられる。しかしその内容や実施方法にはまだ研究すべき点も多くある。本実践では文科系の1年生を対象としたCプログラミング言語基礎演習の授業で、学習者が必要な基礎知識を確実に習得して途中で興味を失わずにプログラミングに取り組めるような設計をしたWeb問題集を補助教材として利用した結果について述べる。

2. プログラミング学習のための電子学習環境の構築と評価

高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）、
管 豊（大阪府立工業高等専門学校）
松永公廣（摂南大学）

筆者らは、学習者個人の学習履歴・思考のプロセスを残すことができる、電子化されたノートを実現した学習システム（以下、プログラミングノート）を開発し、ここ数年間、その学習システムを

利用したC言語の演習を行っている。プログラミングノートを利用した演習では、学習者の思考プロセスを残せるので、とりわけ初心者の学習には、役立っている。しかしながら、学習者が残す自己の間違いなどを記述した考察文が、プログラミングの改善などにつながっているのか、十分な検証が行えていなかった。そこで、本稿では、このプログラミングノートを利用した演習から、考察文システムの利用とプログラミングの改善との関係の分析結果について報告する。

3. シミュレーションを用いた大量調理用献立作成演習の授業設計

松永公廣（摂南大学）、深津智恵美、森田 薫（園田学園女子大学）、森永理恵子（カテナ）
西端律子、前迫孝憲、菅井勝雄（大阪大学）

本稿では献立作成演習システムを利用した給食管理教育において、学習者が作成する献立あらかじめ埋め込んだ問題点に対して、学習者が気づき・調整した状況の評価をフィードバックして強化することが、その後の教育にどのような影響を与えるかを知るための授業を設計・実践した結果について報告する。

4. アニメーション映像教材つきプレゼンテーション教材の有効性に関する研究

北村光一（滋賀県立彦根工業高校）、
西村恵里子（滋賀県立彦根工業高校）、
成宮源治郎（滋賀県立彦根西高校）、
今井 正（滋賀県立彦根工業高校）

平成 15 年度から高等学校で普通教科「情報」の生徒が様々な課題解決型の学習を展開した内容や情報を発表・伝達する手段として、プレゼンテーションを学ぶ。しかしながら、それを指導する教師自身のプレゼンテーション経験が少ないため、適切な指導法モデルや指導内容の構築が必要である。そこで、本研究では、プレゼンテーションの授業展開イメージを教師自身がより具体化できるように、アニメーション教材を開発した。この教材を利用した指導と、従来の教師中心の一斉指導の講義指導とを比較検討することで、「アニメーション教材を利用した指導法が、教師中心の一斉指導法より効果的にプレゼンテーション・スキルを習得できるであろう」の研究仮説を検証する。

5. PowerPointによる情報倫理教材の開発

高橋参吉（大阪府立工業高等専門学校）、
堰口佳保里（大阪府立工業高等専門学校）

小・中学校で 2002 年度から実施、高等学校で 2003 年度から実施の新学習指導要領では、情報モラル教育の重要性が指摘されている。具体的には、中学校の技術・家庭科の「情報とコンピュータ」の単元、高等学校の教科「情報において、情報モラルに関わる学習内容が盛り込まれている。一方、情報モラル指導のための教材や指導方法が提案されている。例えば、(財)コンピュータ教材開発センターからは、「情報モラルの指導事例集」¹⁾、民間のランドマークコンピュータからは、「ネット社会の歩き方」²⁾、大阪府の教育委員会からは、「情報モラル指導資料」³⁾などがある。そこで、本研究では、これらの指導事例を参考にしながら、情報モラルや情報倫理教育に利用できる教材として、クイズ形式の教材コンテンツをプレゼンテーションツールである Power Point を利用して作成した。さらに、このクイズ形式のコンテンツの作成から登録までが自動的にできるシステムも開発した。本稿では、この教材コンテンツの内容および作成システムについて報告する。

6. WBE/WBT 作成を目指した情報システム演習とその評価

栢木紀哉（宮城大学）、岡田口ベルト
（宮城大学）、斐品正照（東京国際大学）

大学設置基準が改正され、大学における教育手段の一つとして、遠隔授業などの情報通信技術を

授業が実施される。特に、「情報 A」の内容では、活用した授業での単位認定が可能となった。これに伴い、WBE(Web Based Education) や WBT(Web Based Training)などが注目されてきており、これらの導入を試みた教育を行っている大学も現れはじめている。しかしながら、WBE/T の設計を演習の目的として取り上げ、外部評価を試みた実践例の報告はあまり多くは見られない。情報システム学に関連する技術を総合的に活用する能力を養うことを目的とした場合、WBE/T の設計を演習に取り入れることは有効であると考えられる。筆者らは、学習者が大学における利用を考えて教材を企画、設計することによる、課題設定能力や問題解決能力の育成を目指した。さらに、作成した教材を、学習者同士で相互評価させることで、プレゼンテーション能力やシステムを客観的に評価する能力も身につけようとした。本研究では、WBE/T 設計を演習課題として取り上げ、演習を行った事例について報告する。また、アンケート調査によって演習の効果を分析する。

7. アルゴリズム学習におけるプログラミング言語を用いた学習と構造化チャートを用いた学習の比較

斐品正照（東京国際大学）、河村一樹
（東京国際大学）

2003 年度から実施される高等学校普通科の教科「情報」や、既に実施されている文科系大学の一般情報処理教育では、特定のプログラミング言語の習得よりも問題解決手段としてのアルゴリズムの理解が目標となる。しかし、文科系大学の教育ではアルゴリズムの理解よりも、プログラミング言語の構文などに学習者の興味・関心・注意が偏ってしまうという傾向があり、教科「情報」においても同様の傾向が生じる可能性がある。プログラミング言語自体が文的表象であり、1 次元的にアルゴリズムを表現する必要があることが、原因の 1 つとして考えられる。そこで筆者らは、構造化チャートを採用したアルゴリズム学習支援システム JPADet を開発した。このシステムにより学習者は、プログラミング言語に依存せず、図的表象として 2 次元的にアルゴリズムを表現・実行することが可能になり、問題解決手段の学習がより効果的になることが期待できる。本論文では、文科系大学生を対象とした実証実験における、プログラミング言語を用いた場合と構造化チャート

を用いた場合の学習の比較検証について述べる。

8. ツールを用いた3次元CGの教育実践

江見圭司(金沢工大), 矢島 彰(京都女子大), 水野義之(京都女子大)

京都女子大学では,2001年度から2回生向けコンピュータ応用科目(文学部,家政学部向け一般教育科目)として・ワープロ応用・表計算応用,関係データベース,コンピュータグラフィックス(CG),ウェブページ制作の半期週1コマの実習科目を5科目用意した。このうち,CGについては学生からの強い要望で設定されたものの,京都女子大学の専任教員で専門家はいなかったため,外部の教員の支援を中心にして,授業を開始した。本稿では授業のノウハウが確立した2年目(2002年度後期)の実践を,報告する。低価格ソフトでも3次元CGの教育は可能であることを報告する。

9. 主観値入力装置の入力特性に関する基礎的研究

上月景正(コナミ株式会社), 浅羽 修丈
(大阪電気通信大学) 石桁正士(大阪電気通信大学)

我々は,これまで様々な評価対象に対する学生自身の主観的な評価についての研究を行ってきた。その結果,我々は主観的に評価した結果をリアルタイムでかつ連続的に採取するための装置「主観値入力装置」を開発した。これまで,この装置に関する研究として,様々な機器を用いた装置の開発,この装置を使用した実験環境の研究,さらにはゲームやテレビCM,音楽などに対する評価の実践的研究を行ってきた。

今回,この装置を使用した実験で,被験者が思ったとおりに入力できているのかどうかを検証したので,報告する。

10. 問題解決演習ワークブック用学習支援システムにおける支援方法

佐藤妙子(大阪電気通信大学大学院), 稲浦 綾(大阪電気通信大学)
渡辺寛二(大阪電気通信大学短期大学部), 石桁 正士(大阪電気通信大学)

新入社員や大学生(短期大学生を含む)の問題解決能力の育成を目的として,「問題解決演習ワークブック初級編」(教育心理学研究会著,2001年初版,綜文館)が刊行された。この本を使って自学自習(ひとり学習)をして,自らその能力を身に付けたい人のための学習支援として,ワークブック用学習支援システムの必要性があると考えている。筆者ら(佐藤・稲浦)は,システムの設計と試作を行っているが,今回は,試作したシステム(実体はホームページ)の内容と学習者に対する支援の仕方について報告する。

11. プレゼンテーション能力育成を目指した授業実践

稲浦 綾(大阪電気通信大学), 西野和典
(大阪電気通信大学) 飯田慈子(tami 情報教育研究所)

大阪電気通信大学総合情報学部メディア情報文化学科では,「DTPr 演習」(2回生対象,選択科目)という授業を行っている。この授業の目的は学生のプレゼンテーション能力を育成することにある。「DTPr 演習」は筆者ら3人が担当しており,それぞれがそれぞれの授業計画,授業内容で演習を行っており,学生はどの授業を受講するか選択することが出来る。本論は,本授業の方針と特徴,3人の授業担当者それぞれの授業計画・実施内容・学生の反応について報告するものである。

12. 普通教科「情報」の教科書と「指導解説書」の内容

西野和典(大阪電気通信大学), 山上通恵
(兵庫県立神戸甲北高等学校) 野口紳一郎
(龍谷大学), 中條道雄(関西学院大学)

2003年4月から始まる高等学校普通教科「情報」の授業で用いられる文部科学省検定済教科書(以下,教科書と記す)の内容について調査した。教科書の索引と章立てから,教科書に記述されている学習内容の傾向を考察した。さらに,著者らが開発した「指導解説書」と教科書の単元とを関連付け,「情報」を指導する教員のための「指導解説書」の利用について検討した。